

平成 30 年 3 月 20 日

平成 30 年 3 月 16 日・18 日開催「市民検討会」

渡辺豊博専務理事の発言説明要旨

市民検討会の概要

グラウンドワーク三島は、3月16日（金）および3月18日（日）に、延べ60人近い参加者を得て、三島駅南口東街区の整備を考える市民検討会を開催いたしました。

参加者の皆さんは、「水の都・三島」にふさわしい街づくりについての問題意識は高く、グラウンドワーク三島が作製した「模型」の提示とともに、三島駅南口東街区に関わり提案させていただいた、「しずおか伊豆・文化の森セントラルパーク構想」整備計画について高い評価と実現への期待の声を受けました。

今後は、さらに三島市内各所での「市民検討会」の開催を積みかさねていくとともに、静岡県、伊豆や駿東地域、全国各地の市民団体や行政、専門家への問題提起とネットワーク化、連携拡大を進めて、全国規模の検討会も開催します。

その経過を通し、さらに、本整備計画の事業内容を「ブラッシュアップ」した、現実性・事業性の高い整備計画にすることにより、市民参加・市民総意の整備計画策定の全国的なモデルになり得るような、市民主導の取り組みを、今後とも積極的に進めていきます。

渡辺豊博専務理事による三島駅南口再開発事業についての説明概要

三島市は「富士山・伊豆の玄関口」として重要な位置にあり「水の都・三島」として、市民力・地域力を発揮し源兵衛川の再生などに取り組んでまいりました。

しかしながら、今回の三島市の三島駅南口再開発事業は、高層建物および商業施設等の建設により、三島市の魅力と品格が損なわれる可能性がある事態となっております。

まず、高層建物は富士山の眺望が阻害され、「富士山・伊豆の玄関口」にふさわしくなく、地下深くまで杭を打つことで、三島市民が恩恵にあずかっている、富士山からの湧水も消滅する危機にあります。また、商業施設への出入りにより渋滞が予想され、自然と文化共生のイメージが損なわれてしまいます。

これらの懸念を踏まえて、当会では、低層建設でも採算性がとれることを想定して、「しずおか伊豆・文化の森セントラルパーク構想」および「回遊性のある『湧水網都市』づくり」について説明いたします。

まず、「しずおか伊豆・文化の森セントラルパーク構想」では、駐車場棟、文

化施設棟、住居・商業施設棟から構成される低層建物を建設し、溶岩広場および森と水の広場を併設します。文化施設棟には文化意識の高い静岡県民のために円形劇場のアイデアを盛り込んでいます。また、そこにビジターセンターを置くことで富士山・伊豆の玄関口の役割を果たします。

「回遊性のある『湧水網都市』づくり」では、三島の歴史を学び、綺麗な川や緑を楽しみながらの散策や神社仏閣などのパワースポットめぐりができる街づくりを目指しています。

市民検討会では積極的な質問や参加者からの提案が活発に出され、「劇場には室内スポーツの大会開催にも対応可能な機能を含めるのはどうか」といった意見も、昨今、日本のプロレスがアメリカで大変な人気を博しているといった事実紹介と併せてありました。

グラウンドワーク三島のこれらの構想は、過去の三島市民の声や意見を取り入れたものではありませんが、今後も積極的に三島市民、静岡県東部、更に、静岡県民の声を取り入れていきます。

水が人間にとって大切であることを再認識し世界の「水の都」であり続けられるよう、また文化・歴史・自然を大切にしていけるように発展していく構想を作り上げていきたいと考えております。